祐介の目

大田ゆうすけ
（福山市議会議員）

No.59

毎月１日号に掲載

ココダトレイル

パプアニューギニアの首都はどこかと尋ねられて即答できる人は少ないだろう。約75年前に日本軍は米豪連合軍を分断するために、このオーストラリア軍の拠点であったポートモレスビーを占領すべく、福山歩兵第41連隊を含む南海支隊が標高４千ｍ級のオーエンスタンレー山脈を越えてポートモレスビー進攻作戦を計画した。

地政学的に逆の立場で見れば、ソ連が朝鮮半島の釜山に侵攻して日本の喉元に迫る話であり、オーストラリアからすれば絶対に阻止すべき作戦であった。この山越えルートは起点となるココダという村の名前を取って、今ではココダトレイルと呼ばれている。

７月、この作戦で約2千人の犠牲者を出した41連隊のご遺族とパプアニューギニアの激戦地跡を訪問した。遺児の方など父の戦死から70年以上経って初めてココダや全滅の地ギルワを訪問することができて感無量の様子だった。遺族の心の叫びに接し、来て良かったと心から思った。また、家族を残して祖国よりはるか5千キロの地で亡くなった方々の無念さを思うと、日本人として何時までも忘れてはならない歴史と強く感じた。

オーストラリアとしても忘れられない歴史であり、ココダトレイルは日本軍の侵攻を阻止した歴史的なルートであると、ガイド随伴で山あり谷ありのジャングルを7～9日間かけて歩くトレッキングツアーが大人気だそうだ。何しろオーストラリア建国以来、本土を攻撃した国は日本だけであり、対日戦争の歴史は国民全員が知っている。逆に日本人はオーストラリアと戦争をした事さえ知らないし、戦後の福山市への進駐軍がオーストラリア軍だった事も忘れ去られている。その両国民がワールドカップ等の試合において対戦した際の国民感情の違いは歴然としている。

近年、坂本龍馬が脱藩した際に四国山脈を越えた道を辿る人が多いと聞く。ココダトレイルも同様に戦争の善悪は別として歴史ファンに辿っていただきたいものだ。